

## 事業概要書

事業名	熊本県上益城郡山都町矢部地区におけるまちづくり復興支援プロジェクト				
開始日	2016年6月4日	終了日	2016年9月3日	日数	90日
団体名 (カウンターパート)	通潤橋応援プロジェクトチーム				
担当者名	中島 由博	スタッフ人数	2人		

事業費総額(税込)	1,851,500円
CF事業枠	1,851,500円
その他資金	0円

事業目的	<p>熊本地震により甚大な被害を受けた、山都町のシンボルである通潤橋の修繕が必要な状況であるが、世間ではこの地の被害の大きさはあまり報道されていない。通潤橋の修復には莫大な費用がかかる見込みであり、そのための資金をどうやって獲得するのかが大きな問題となっている。そこで、この「通潤橋応援プロジェクト」を立ち上げ、このプロジェクトを通して、通潤橋が160年前に作られた、日本最大にして現役の通水橋であるという社会的な役割を伝え、テレビや新聞ではなかなか報道されない山都町周辺の被災の現状を広く情報発信をすることで、通潤橋修復に向けた支援や援助への足がかりとしたい。そして、通潤橋の修繕のみで終わるのではなく、今後の山都町の振興・存続について考える、町づくりの中心的役割を担えるような組織作りをしていくことも、重要な目的の一つである。</p>
事業全体の概要	<p>●<u>通潤橋応援プロジェクトとは</u></p> <p>熊本地震により、山都町のシンボルである通潤橋が被災。大きな被害を受け、現役の農業用水として活躍してきたこの通潤橋からの放水ができなくなっている。通潤橋は国の重要文化財として指定されているため、山都町の大きな観光資源でもある。この通潤橋の被災により、町の農業、経済に大きな影響を及ぼすことが懸念される。そのような中、有志を募りこのプロジェクトを立ち上げた。</p> <p>●<u>通潤橋応援プロジェクトチームとは</u></p> <p>「通潤橋応援プロジェクト」の実行メンバーとして、集まった若手の農業従事者が主なメンバー：代表 三浦祝弘（三浦農園・通潤用水土地改良区会員）、西田豊和（西田農園・JAかみましき青壮年部矢部支部副部長）、興梶博治（興梶ブルーベリー農園・チーム蘇陽代表・オールドカー担当）、橋本龍生（橋本農園）、八田祥吾（MARUHACHI FARM）、鳥越靖基（ASO GAIRINZAN Organic）、田上貴史（有機農家）、岸知恵（ASO GAIRINZAN Organic）、眞原誠（山都町観光協会・事務局）、岸本竜彦（本さつまや・山都町商工会青年部）、中島由博（なかはた農園・事務局）以上メンバーが執行部で以下もプロジェクトメンバーです。</p>

吉見泰成（吉見建設・山都町商工会青年部）、高野 清華（じゅんぐり舎）、今村 剛喜（リーフレットファーム）、藤川大輔（JA かみましき職員）、野口慎吾（熊本県立大学特任准教授）、荒木久尚（共栄コア広告代理店）、渡部 修（デザイナー）、菊池 一哲（通潤酒造）、臼杵大介（熊本日日新聞）

ほか「お田植祭」当日サポートメンバー約 20 人。

それぞれの得意分野でチームを運営。また山都町食農観光塾という山都町が運営する人材育成組織に上記メンバーの大半は所属し、プロジェクトを組織している。

#### ●取り組むべき課題

通潤橋は水を通す石管の接合部が破損し、本来の役割である通水が行えない状況。農業用水の安定確保のためにも一刻も早い復旧が必要である。この通潤橋からの放水は観光の目玉でもあったが、放水もできない状態になっている。このため、町の観光業にも大きな影響が懸念されている。しかしながら、調査・修復のめどは立っていない。そこで、まずは被災状況を広く発信し、現状を知ってもらうことでより多くの関心を持ってもらい、そこから修復のための支援・援助を獲得できればと考えている。

熊本地震以前から人口減少、超高齢化が問題となっており、数十年後には消滅可能性町村であると言われる山都町。今回の地震がこれに追い打ちをかける事態となっている。このような中で、地元、農・商・工業者、官民学を含め皆が一丸となり、通潤橋の復旧を目指して活動することで、一体感が生まれ、やがて山都町の振興・存続を考える町づくり活動へと展開していくことを期待する。また自らがこの町の担い手であり自らこの町を作っていく主体なのだという認識を醸成していく機会としたい。通潤橋被災は不幸な出来事だが、このタイミングだからできる人・力の集結+広大なネットワークを活用し、あらゆる業種や年代の枠を超え、また旧町村や自治体の枠を超えたオール山都のメンバーが集結することができた。そして、世界・全国の視線が熊本に向けられている今こそ、積極的な情報発信をする好機であると考え、しがらみにとらわれず、通潤橋を応援したい、山都町をよりよくしたいという純粋な想いでこの活動に取り組んでいきたい。

#### ●パートナー協働プログラム対象事業

##### ①通潤橋に隣接する田んぼを利用した応援 PR イベント「お田植祭」の実施

・2016年6月4日に「お田植祭」を実施。田植え体験、神事の見学、泥んこスポーツ、ライブ、オールドカーミーティングなどの様々な催しが集まる場で、通潤橋の応援 PR を実施。メディアを通じて被災の状況を発信する。

##### ②援農ボランティアのマッチング

これまで通潤橋を含む通潤用水路を維持管理してきた「通潤土地改良区」とともに、通潤用水路の土手草刈り（6月は2回、8月に1回）、通潤橋周辺清掃活動（8月に1回）のボランティアマッチング

	<p>③修繕資金を集めるためのイベント等企画・実施 通潤橋修繕のための資金的・技術的な支援を集めるための募金活動も含めたイベント等の実施について企画、実施、定例イベント棚田ウォーキングなどと共催</p> <p>●期待される効果 マスコミによって報道されていない被災の現状を広く発信することにより、通潤橋の歴史的価値をより多くの人に知ってもらい、支援の手が行き届いていない地域もあるのだということを知ってもらう機会となることを期待する。この活動を、通潤橋修復のための莫大な費用に対する資金的・技術的な支援や協力を得るための足がかりとする。 また、震災前から大きな問題となっていた人口の減少や超高齢化という問題についても、この事業により外部からの交流人口が増え、町そのものが活性化することを期待する。そして、先祖代々この土地に暮らしてきた人や移住してきた人、農業者、商業者、学者、官民、すべての人が枠組みを超えた協力をするための場づくりをすることで、それぞれが町づくりの主体なのだという意識を醸成する。</p>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
<p>① 潤橋に隣接する田んぼを利用した応援 PR イベント「お田植祭」の実施。 ・2016年6月4日に「お田植祭」を実施。田植え体験、神事の見学、泥んこスポーツ、ライブ、オールドカーミーティングなどの様々な催しが集まる場で、通潤橋の応援 PR を実施。メディアを通じて被災の状況を発信する。</p>	<p>体験・参加者、地域住民、観光客 2000人</p>
<p>② 援農ボランティアのマッチング これまで通潤橋を含む通潤用水路を維持管理してきた「通潤土地改良区」とともに、通潤用水路の土手草刈り (6月は2回、8月に1回)、通潤橋周辺清掃活動 (8月に1回) のボランティアマッチング</p>	<p>被災地域農業者 500人</p>
<p>③ 修繕資金を集めるためのイベント等企画・実施 通潤橋修繕のための資金的・技術的な支援を集めるための募金活動も含めたイベント等の実施について企画、実施、定例イベント棚田ウォーキングなどと共催</p>	<p>5,000人</p>